

令和4年度京田辺市大学連携地域貢献研究事業研究概要一覧

研究テーマ	大学名・学部	研究者名	研究概要	備考
農と食を活用した市民主導型まちづくりの推進-地元産大麦とマコモタケの商品化の試みを軸として-	摂南大学農学部応用生物科学科	特任助教 沼本 穂	<p>京田辺市は、これまで豊かな自然環境と高い利便性を活かし、便利なコンパクトティの形成と子育て支援を中心とした街づくりを一定の成果を上げてきた。農業をめぐっては従来、水田稲作のほか、京都市場向けの茶の生産、大都市市場向け野菜生産がなされ、いずれも高い品質と生産性を実現してきた。しかしながら、農業従事者の高齢化や就労者層の流出により脱離農が進み、耕作放棄地が増加傾向である。都市農業の公益機能を慮るにあたり、本市の農地を活用や様々な形でのネットワーク形成を提案し、まちづくりにつなげる取り組みは喫緊の課題となっている。上記の現状を踏まえ、私たちは、「食農」の活性化および地域資源の活用と循環を進めることを軸に、本市がすでに有している各種の資源をつなぎ合わせた都市マネジメントのためのプラットフォーム形成を行うことを目標としている。</p> <p>本研究は、地ビールやマコモタケを中心とした商品開発に向けた栽培・加工実験を行ながら、大学・事業者・市民のネットワーク拡大とそのモデル化を試みた。</p>	
遠く離れた京田辺の文化財をもっと身近に-市外所在京田辺市出土文化財の3D化と活用方法の模索	京都府立大学文学部	准教授 謙早 直人	<p>京田辺市内には日本列島古墳時代を代表する重要な古墳が多数あるにもかかわらず、市民の認知度はそれほど高くない。その大きな要因として、市内の古墳出土品の多くが市外の博物館に保管され、市民がアクセスしにくいことが挙げられる。</p> <p>本研究では、市外に所在する京田辺市出土文化財を3D化し、将来的にデジタルミュージアムのような形で活用する基盤の構築を目指した。</p>	
京田辺市における新しい観光マップの作成を通じた地域理解の促進を目指す実践的研究	同志社女子大学 現代社会学部・社会システム学科	教授 天野 太郎	<p>京田辺市は人口増加の続く数少ない自治体として知られているが、新住民、さらには昼間人口の多くを占める大学生が、京田辺市の地域の魅力を十分に理解していないという課題がある。京田辺は単なる郊外住宅地域としてだけではなく、さまざまな歴史遺産を有する文化に薫る地域性を有しているにもかかわらず、特に若年層にとってはそのイメージは希薄である。この地域に対する理解と愛着とを醸成し、単なる観光客や移住・定住人口の数値的な増加を目指すのみならず、関係人口を構築していくことは、京田辺市に限らずこれからの地域社会に共通する持続可能な活性化に向けての課題でもある。こうした問題意識と地域課題の解決を目指して、本研究では既存の地域資源の正確な理解や、京田辺市で学ぶ大学生の視点を通して、京田辺市の総合戦略のうちの基本目標である【3 京田辺へ新たな人の流れをつくるまちづくり】に向けての実践的な研究を行うことを目的とする。</p>	